

言語活動を単元を貫いて位置付ける。

2013.12.24

言語活動を取り入れても、単元を貫くことを意識しないと・・・

説明文を大きな声で、間違いずに読みましょう。そして、疑問に思ったことを話し合しましょう。【導入】



単元計画 第一次（1時間）

【導入】音読、話し合い

段落ごとに、詳しく筆者の考えを読み取りましょう。そして、段落のつながりをノートに書きましょう。【展開】



第二次（7時間）

【展開】（精読）

教科書を参考に、説明文を書きましょう。それをみんなで、読み合しましょう。【まとめ】



第三次（4時間）

【まとめ】（説明文を書く、読み合い）

学習（言語活動）のつながりを欠いている。

家で、音読を頑張ったから、間違いずに上手に読めるぞ。説明文もおもしろそうだな。



同じことの繰り返しでつまらないな。段落のつながりって、何のために考えるの？



何を書いていいのか分からないよ。

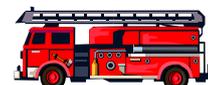


児童生徒の**学習意欲**も低下していく・・・

国語科は、授業において「話したり聞いたり」「書いたり」「読んだり」する活動によって、学習指導を行います。しかし、これらの言語活動が、単発でつながりを欠くと、何を学習しているのか分かりにくくなるとともに、**単元で付けたい力**も十分定着しません。

➡ **言語活動を単元を貫いて位置付ける**ことが大切です。

では、具体的に、小学校1年「じどうしゃくらべ」の単元で



学習指導要領

読むこと イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

書くこと イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

単元の目標

本や文章から、事柄の順序に気を付けて必要な情報を選び、自分の思いが伝わるように文章を書くことができる。

言語活動「図鑑を読んで好きな乗り物の情報を得て、乗り物図鑑にまとめる。」

言語活動の特徴

絵や写真と関連付けて図鑑を読み、好きな乗り物の働きや構造を説明する図鑑を作る。

読むことと書くことを関連させて指導するのに効果的な言語活動。

単元構成の一例

第一次	第二次	第三次
見通しをもつ	教材文で学習する。	図鑑にまとめる。

第一次	第二次	第三次
見通しをもつ	教材文で学習する。	図鑑にまとめる。
	教科書の読みを図鑑に適用しまとめる。	

第一次	第二次	第三次
見通しをもつ	教材文で学習する。	教科書の読みを図鑑に適用しまとめる。



第一・二・三次で「図鑑にまとめる」ことを位置付け、単元構想を行う。

授業で、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりするのは図鑑にまとめるため。

言語活動(図鑑にまとめる)を行うために必要な力となる。

教師

第二次で、言語活動「図鑑にまとめる」に必要な力を「教材を通して」指導する。

※ 単元を貫く言語活動を行うために必要な力を洗い出す必要がある。

児童・生徒

第二次で、教材文を読む目的を意識して、学習に取り組むことができる。

→ 主体的・意欲的な学習活動となる。

